

2005年8月4日

# 2006年3月期第1四半期財務・業績の概況

東レ株式会社  
代表取締役社長 榊原定征

# 目次

・“プロジェクトNT-Ⅱ”の主要課題	(P3)
・NT-Ⅱの数値目標	(P4)
・2006年3月期第1Q業績の概要	(P5)
・事業セグメントの変更	(P6)
・事業セグメント別売上高・営業利益	(P7-13)
・営業利益増減要因分析	(P14)
・2006年3月期中間期業績見通し	(P15)
・事業環境変動要因に対する当社対応	(P16)
・原料価格の見通し	(P17)
・事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し	(P18-19)
・本社移転について	(P20)
・最近のトピックス	(P21-23)
＜参考資料＞	(P24-35)

# “プロジェクト NT-II”の主要課題

経営課題	プロジェクト
意識改革・ 企業体質強化 （“守り”の経営課題）	(1) 活性化
	(2) トータルコスト競争力（～05/3） 自助努力改善（05/4～）
	(3) 財務体質強化
	(4) 営業改革
事業構造改革 による事業拡大・収益拡大 （“攻め”の経営課題）	(5) 品種別利益管理強化
	(6) 先端材料事業拡大
	(7) ナンバーOne事業拡大
	(8) 海外事業の戦略的拡大

守りの経営を維持しながら攻めの経営を推進

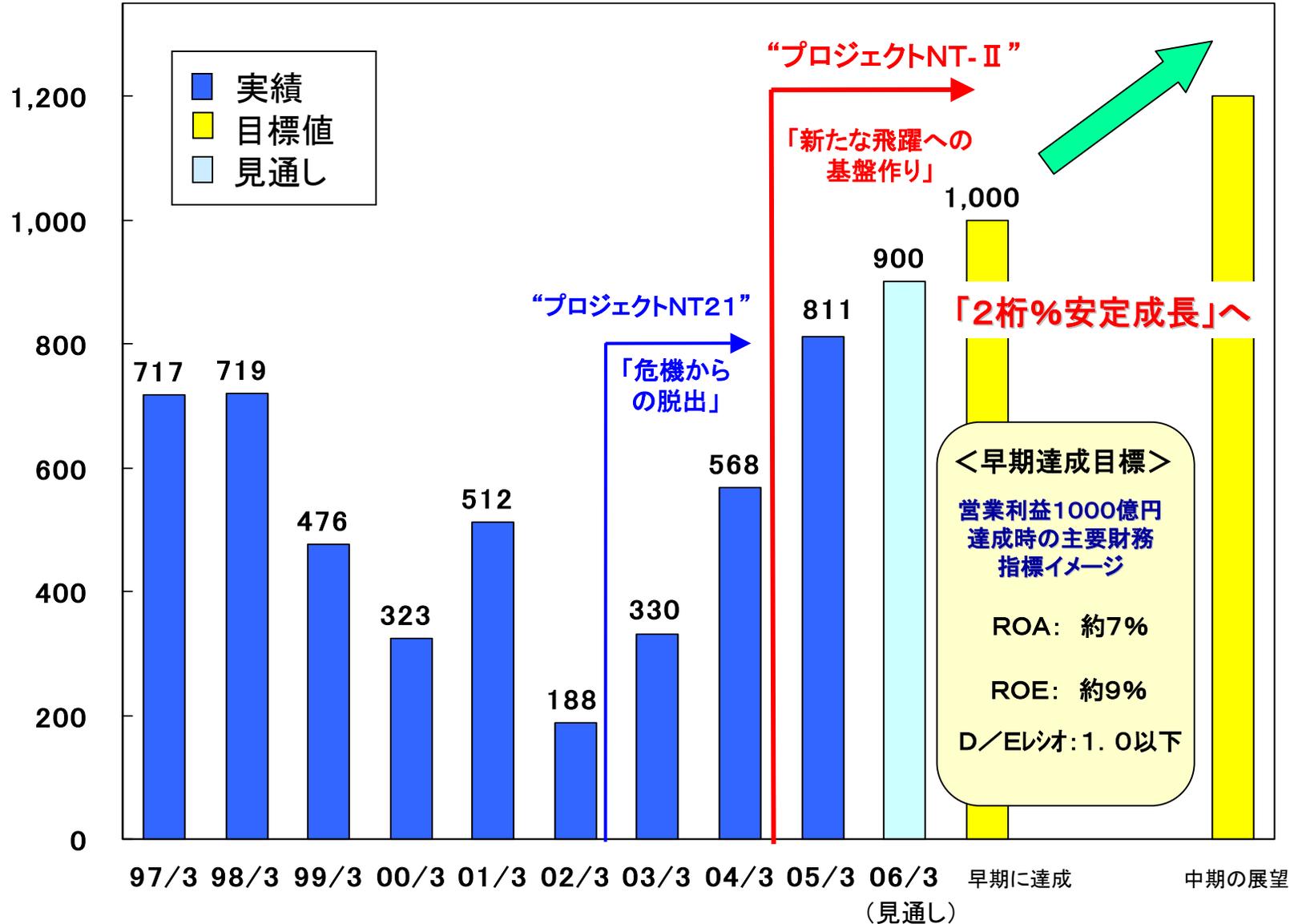
連結営業利益1,000億円の早期達成

グローバルな高収益企業グループへの飛躍

# NT-Ⅱの数値目標

(億円)

## 営業利益の推移・計画・展望



# 2006年3月期第1Q業績の概要

単位:億円

蝶理・水道機工の影響を除いた場合

	05年3月期 第1Q	06年3月期 第1Q	増減
売上高	2,721	3,241	+520 (+19.1%)
売上原価	2,105	2,569	+464 (+22.0%)
売上総利益	616	672	+56 (+9.1%)
(売上高総利益率)	22.6%	20.7%	-1.9 ポイント
販売費及び 一般管理費	455	513	+58 (+12.8%)
(売上高販管費比率)	16.7%	15.8%	-0.9 ポイント
営業利益	161	159	-2 (-1.2%)
(売上高営業利益率)	5.9%	4.9%	-1.0 ポイント
営業外収支	4	▲9	-13 (-)
経常利益	165	150	-15 (-9.3%)
特別損益	▲11	▲21	-10 (-)
純利益	88	64	-24 (-27.2%)

	05年3月期 第1Q	06年3月期 第1Q	増減
売上高	2,721	2,763	+41 (+1.5%)
売上原価	2,105	2,139	+33 (+1.6%)
売上総利益	616	624	+8 (+1.3%)
(売上高総利益率)	22.6%	22.6%	-0.0 ポイント
販売費及び 一般管理費	455	466	+12 (+2.6%)
(売上高販管費比率)	16.7%	16.9%	+0.2 ポイント
営業利益	161	158	-4 (-2.3%)
(売上高営業利益率)	5.9%	5.7%	-0.2 ポイント

	05年3月末	05年6月末	増減
総資産	14,023	14,125	+102 (+0.7%)
株主資本	4,525	4,585	+60 (+1.3%)
有利子負債	4,668	5,023	+355 (+7.6%)

営業利益見通しに対する第1Q進捗率

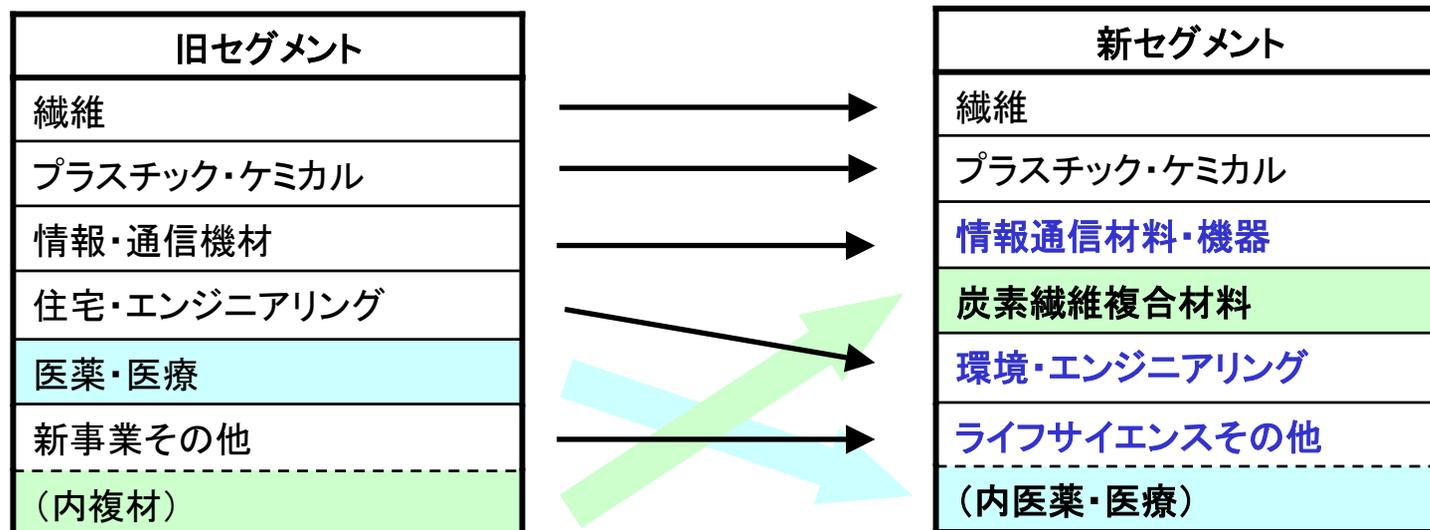
	05年3月期	06年3月期
第1Q営業利益	161	159
上期営業利益 05年3月期は実績 06年3月期は見通し	356	340
第1Q進捗率	45.3%	46.9%

注)06年3月期上期見通しは、  
05年5月時点の見通し

(注)3月期決算会社は4~6月の業績、12月期決算会社は1~3月の業績を連結

# 事業セグメントの変更

変更点	変更内容	変更理由
事業セグメント区分の見直し	複合材料事業を独立表示し、「炭素繊維複合材料」とする	事業拡大に伴い、今年度中にも営業利益が連結ベースの10%前後となる見通しであるため
	医薬・医療事業を「ライフサイエンスその他」に含める	中・長期的な事業拡大を目指す、現状では事業規模が相対的に小さくなったため
事業セグメントの名称変更	「情報・通信機材」を「情報通信材料・機器」に変更	IT関連の材料・機器を表すより適切な表現とするため
	「住宅・エンジニアリング」を「環境・エンジニアリング」に変更	水処理事業等環境関連事業を戦略的に拡大するという当社の戦略を明確にするため
	「新事業その他」を「ライフサイエンスその他」に変更	医薬・医療事業と「新事業その他」の炭素繊維複合材料事業以外を合わせて「ライフサイエンスその他」とする

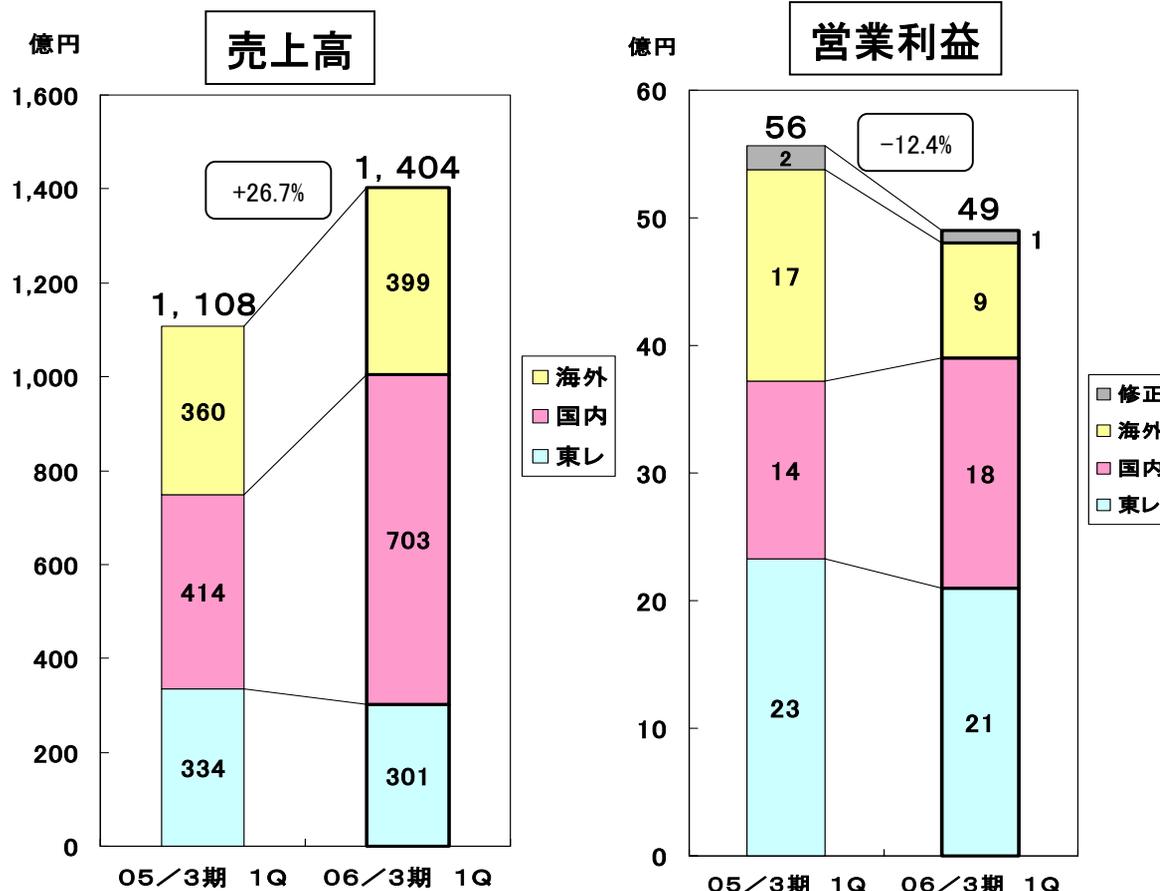


# 事業セグメント別売上高・営業利益

億円

	売上高			営業利益			特記事項
	05/3 第1Q	06/3 第1Q	増減	05/3 第1Q	06/3 第1Q	増減	
繊維	1,108	1,404	+296 (+26.7%)	56	49	-7 (-12.4%)	蝶理の連結子会社化により、増収となるも、アジア子会社を中心に原燃料高の影響もあり、減益。
プラスチック・ケミカル	653	780	+127 (+19.4%)	30	39	+10 (+32.8%)	蝶理の連結子会社化により、増収。海外は、アジア・欧米とも原燃料価格上昇分の製品価格への転嫁や高付加価値品へのシフトを順調に進め、増収増益。
情報通信材料・機器	518	517	-1 (-0.2%)	67	50	-16 (-24.7%)	前年同期に好調であったデジタル関連製品需要の調整があり、減益。売上高は蝶理の連結子会社化の影響により、横這い。
炭素繊維複合材料	106	119	+14 (+12.8%)	15	26	+11 (+71.4%)	全用途で拡販を行うとともに、欧州子会社の増産効果もあり、増収増益。
環境・エンジニアリング	160	247	+87 (+54.4%)	▲ 10	▲ 9	+1 (-)	建設子会社、エンジニアリング子会社の拡販に加え、水道機工の連結子会社化により、増収。
ライフサイエンスその他	177	174	-2 (-1.2%)	3	3	-0 (-3.2%)	医薬・医療事業は競争激化のため減収となるも、体質強化をすすめ、利益改善。
(内医薬・医療)	99	93	-6 (-5.6%)	▲ 4	▲ 1	+3 (-)	
連結	2,721	3,241	+520 (+19.1%)	161	159	-2 (-1.2%)	

# 事業セグメント別業績(繊維)



## 特記事項

### 東レ

衣料用途の不振を自動車関連を中心とした産業用途への拡販でカバーしたが、蝶理の連結子会社化による内部消去増の影響もあり、減収。

価格転嫁・高採算品へのシフトを進めるも、原燃料価格高騰の影響をカバーし切れず、減益。

### 国内子会社

蝶理の連結子会社化の影響により、増収増益。

### 海外子会社

アジア子会社が原燃料高の影響を受けるとともに、欧州子会社の不振もあり、減益。

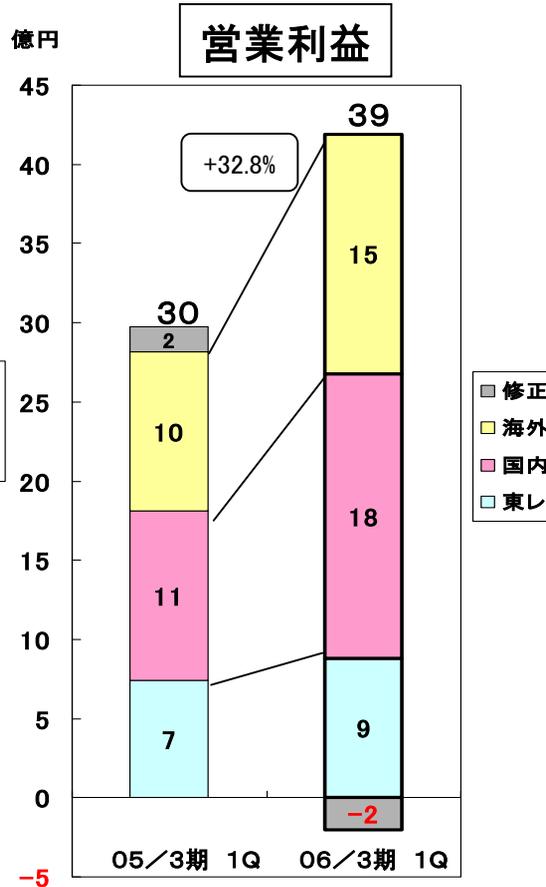
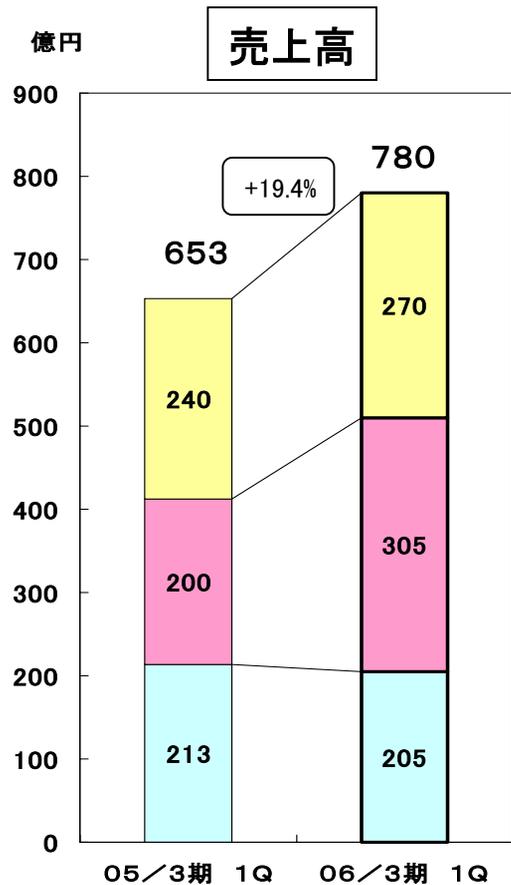
### <主要関係会社>

国内：東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア：PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米：ALCANTARA(イタリア) 他

# 事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



## 特記事項

### 東レ

フィルム事業の一部の製品を子会社に移管したこと及び、ケミカル事業のラクタム外販を中止したことにより、減収となるも、これらの影響を除くと、樹脂、フィルム、ケミカルとも堅調に推移し、実質的には増収。

### 国内子会社

蝶理の連結子会社化の影響に加え、東レからフィルム加工子会社へ包装材料事業が移管されたことなどから、増収増益。

### 海外子会社

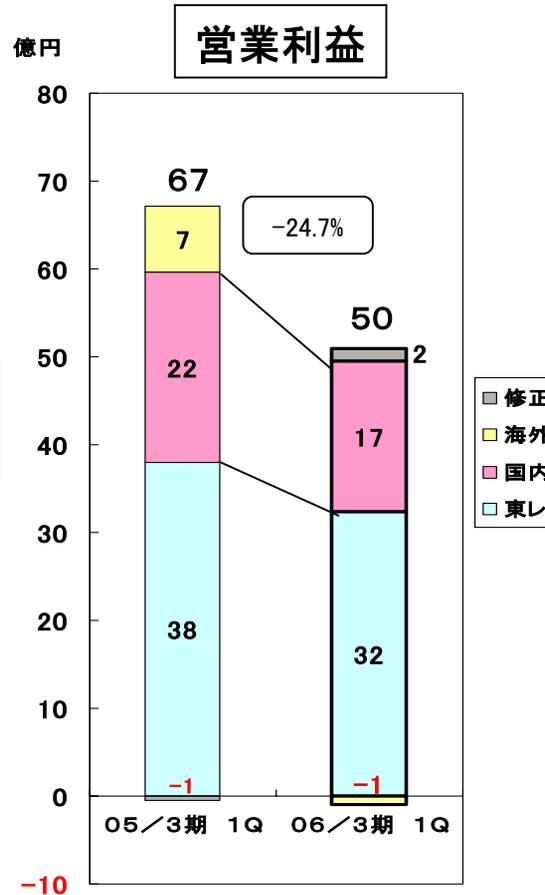
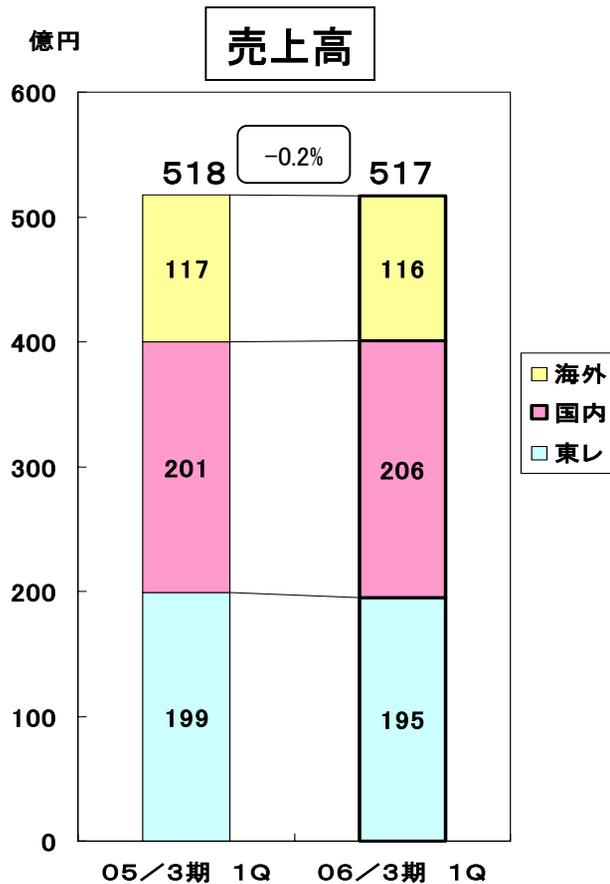
原燃料価格高騰によるコストアップ分の販売価格への転嫁、及び事業構造の転換を進め、全体で増収増益。

### <主要関係会社>

国内： 東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他

海外： TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

# 事業セグメント別業績(情報通信材料・機器) **TORAY**



## 特記事項

### 東レ

前下期からデジタル関連製品需要が調整局面に入ったことから、回路材料などの販売が前年同期比では減少し、減収減益。

### 国内子会社

蝶理の連結子会社化により、増収なるも、前年同期に好調であった液晶分野の設備投資の一巡により、関連機器の出荷が減り、減益。

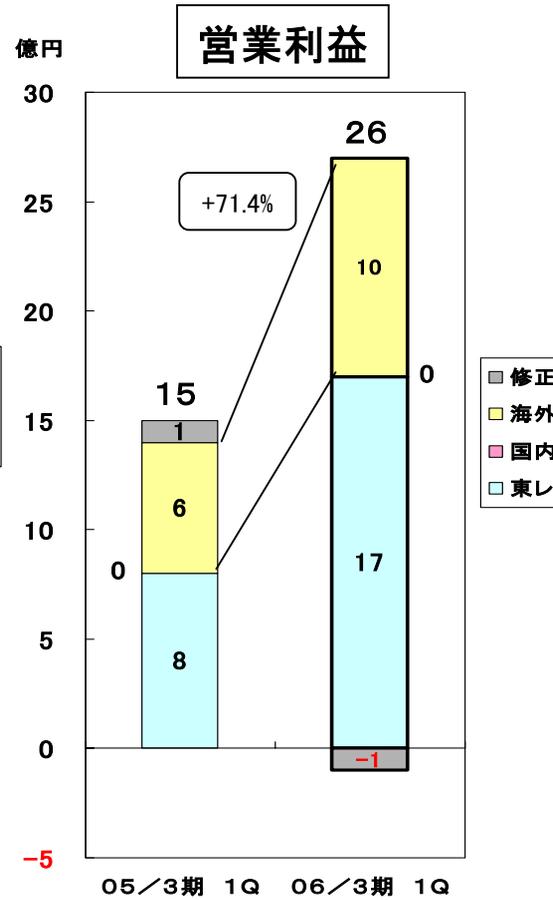
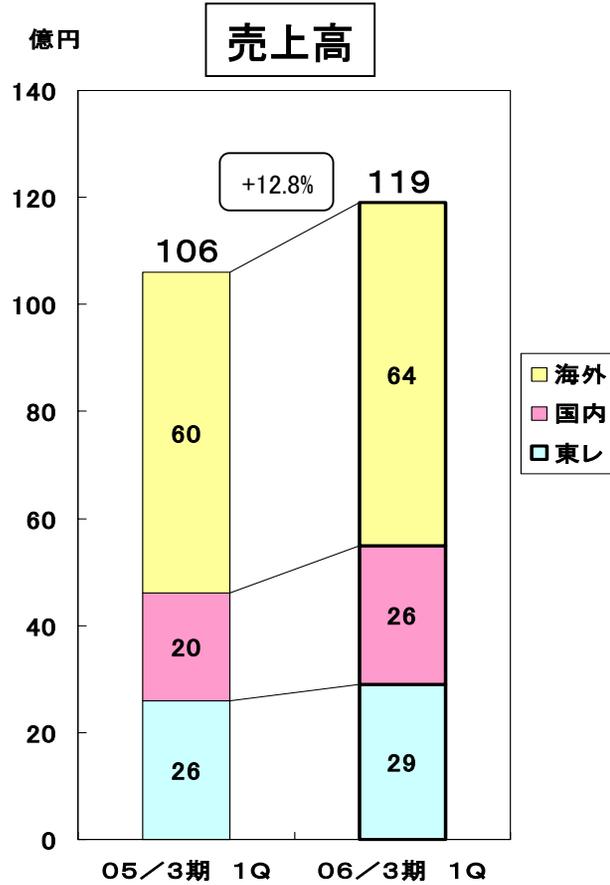
### 海外子会社

韓国子会社で、磁気テープ需要減少の影響を受け、また、回路材料関連事業ではユーザーの在庫調整の影響もあり、減収減益。

## <主要関係会社>

国内: 東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外: TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他



## 特記事項

### 東レ

航空機用途、機械部品等の一般産業用途、ゴルフシャフトを中心としたスポーツ用途等、全用途が堅調に推移し、高採算品へのシフトも進めた結果、増収増益。

### 国内子会社

売上高は、東レインターナショナル(商事子会社)のもの。

### 海外子会社

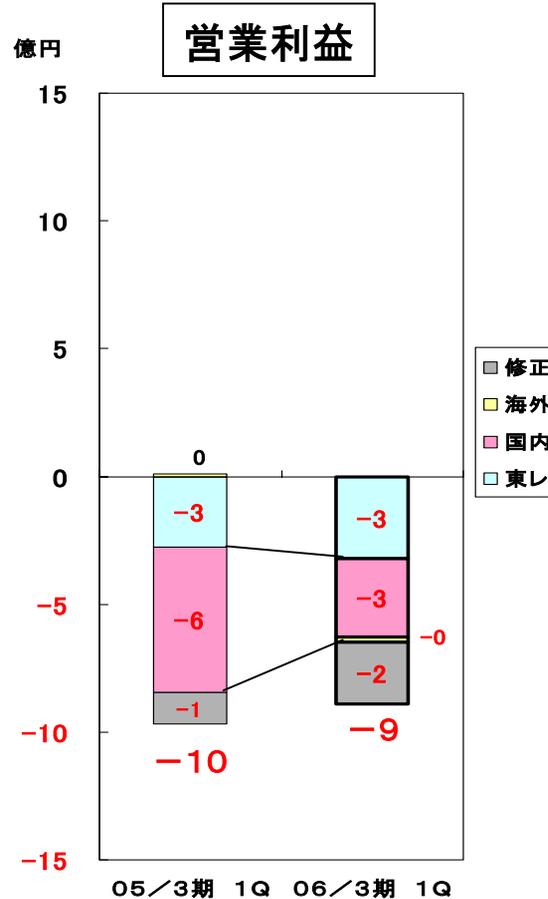
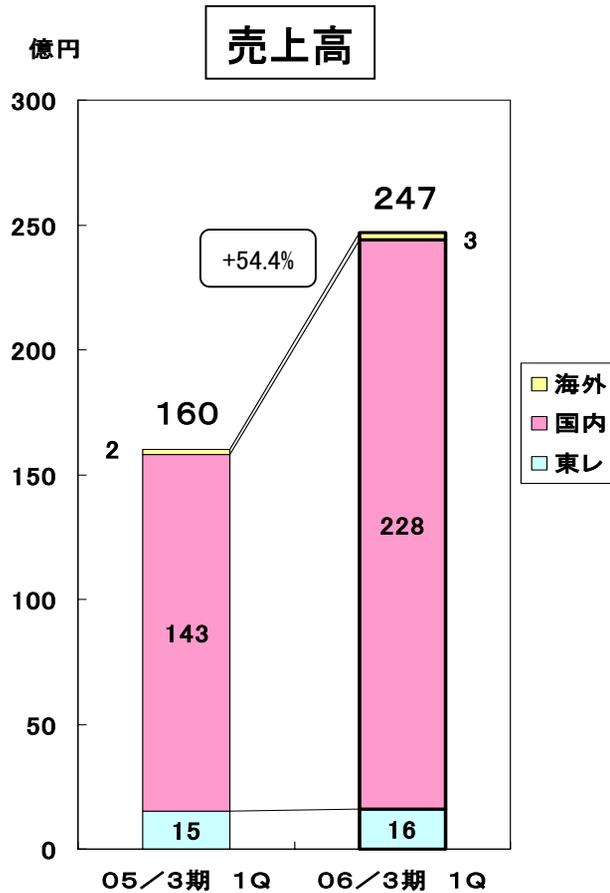
航空機用途及び産業用途で拡販を進めるとともに、欧州子会社の増産効果もあり、増収増益。

### < 主要子会社 >

国内： 東レインターナショナル

海外： SOFICAR (フランス) 他

# 事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング) **TORAY**



### 特記事項

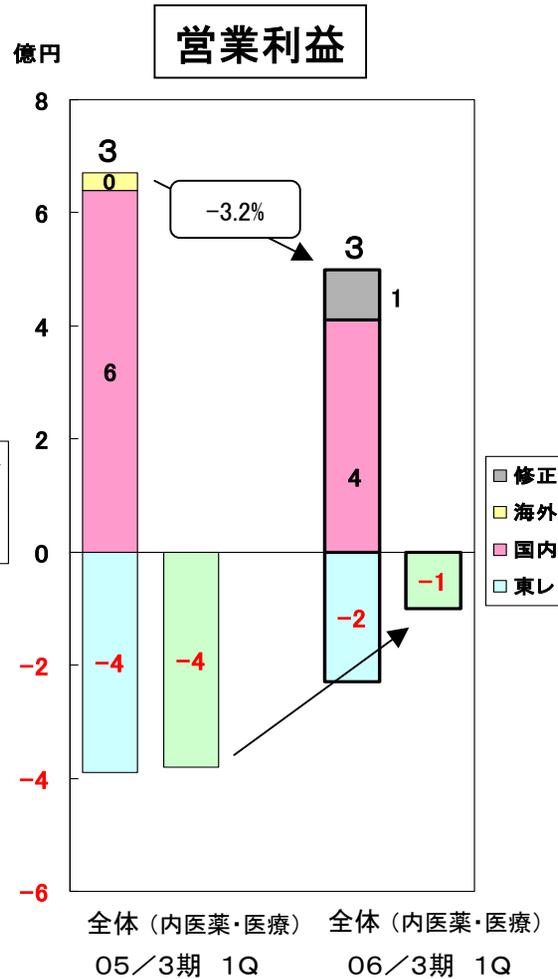
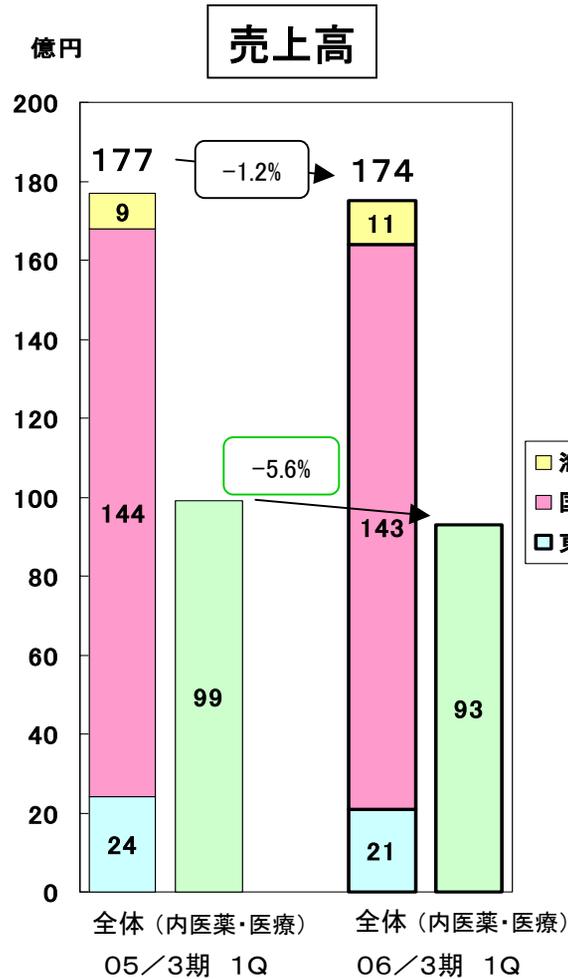
**国内子会社**

水道機工は赤字なるも、各子会社が拡販と体質強化を進め、利益改善。

## <主要子会社>

国内： 東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

# 事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他) **TORAY**



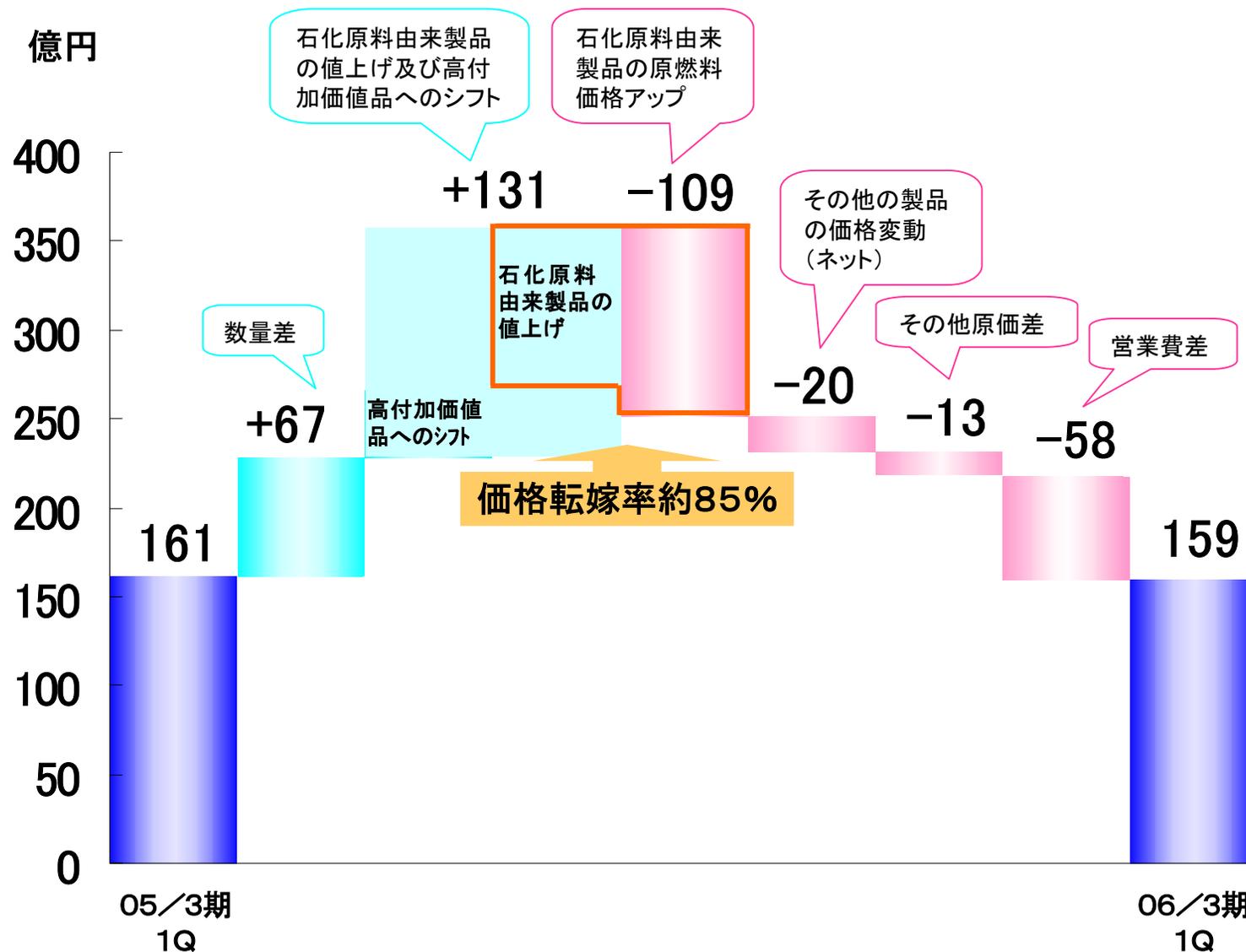
## 特記事項

医薬・医療事業は、競争激化のため減収となるも、体質強化を進め、利益改善。

## <主要関係会社>

国内：東レ・メディカル、東レリサーチセンター、東レエンタープライズ 他

# 営業利益増減要因分析



# 2006年3月期中間期連結業績見通し

億円

	前年同期 実績	今回見通し		期初見通し	増減
売上高	5,757	7,000	+1,243 (+21.6%)	7,000	- (一)
営業利益	356	340	-16 (-4.5%)	340	- (一)
経常利益	348	310	-38 (-10.9%)	310	- (一)
中間純利益	198	130	-68 (-34.3%)	130	- (一)

備考：為替レート的前提は、105円/US\$

(注)5月11日に発表した中間期業績見通しは修正していません。

通期の業績予想につきましては、中間決算発表時に見直しを行う予定です。

# 事業環境変動要因に対する当社対応

第2四半期以降の主たる事業環境変動要因について、下記対応を着実に実行する。

## <環境変動要因>

## <当社対応>

繊維  
プラ・ケミ

7月以降、原燃料価格が想定以上に上昇

- さらなる価格転嫁の推進
- 高付加価値品への転換による収益改善の継続的な実施

情報通信  
材料・機器

下期回復と見込むデジタル関連製品需要の回復遅れ

- 新規成長分野への拡販  
(FPD分野、デジタルフォト分野等)
- 韓国での拡販  
(グローバルオペレーションを活用したシェアアップ)
- コストダウンによる価格競争力向上
- 強力なパートナーとの更なる取り組み強化

グループ  
全体

人民元のさらなる切り上げに伴う影響

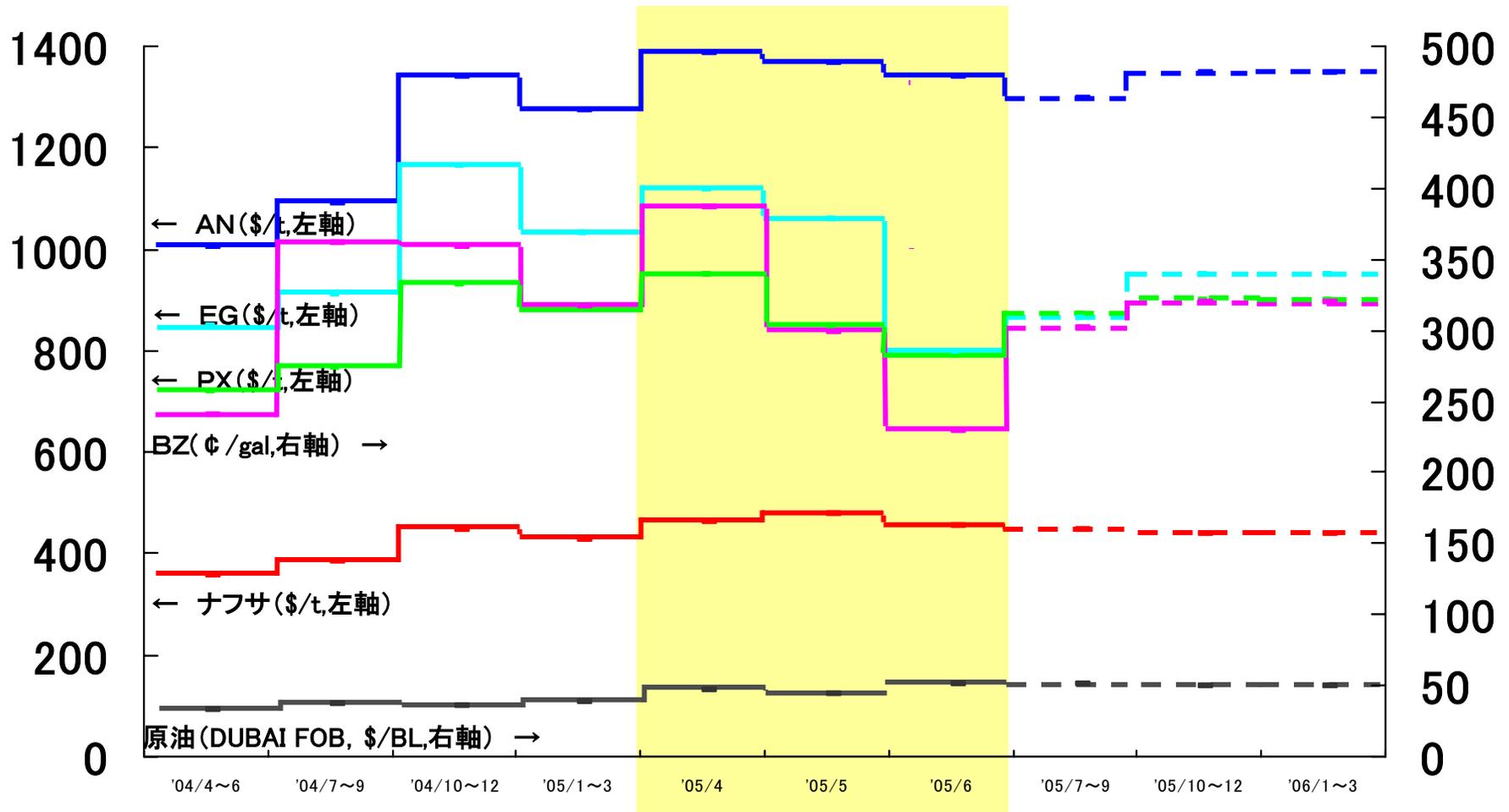
- 10%未満では基本的に影響なし
- 10%以上でも、トータルで見れば東レグループとしては好ましい
- 人民元の借入金は、USD建に転換済み

+

成長事業のさらなる収益向上によるバックアッププランの実行

# 原料価格の見通し

主要原料の価格は、5～6月に軟化したのが、7月には反転し、今後も高値の水準を維持すると見込む。



# 事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し



## 前年同期比

億円

	売上高			営業利益			特記事項
	前年同期実績	今回見通し	増減	前年同期実績	今回見通し	増減	
繊維	2,242	2,950	+708 (+31.6%)	101	90	-11 (-10.5%)	蝶理の連結子会社化等により、前年同期比増収の見通しであるが、原燃料高の影響及び、欧州子会社の不振等により減益の見通し。
プラスチック・ケミカル	1,348	1,730	+382 (+28.3%)	60	85	+25 (+40.7%)	蝶理の連結子会社化等により、前年同期比増収の見通し。原燃料高の影響はあるが、製品価格への転嫁及び高付加価値品の拡販により、前年同期比増益の見通し。
情報通信材料・機器	1,085	1,050	-35 (-3.2%)	150	110	-40 (-26.5%)	前年同期に好調であったデジタル関連製品需要の調整及び、液晶分野の設備投資の一巡により、減収減益の見通し。
炭素繊維複合材料	215	260	+45 (+21.0%)	28	50	+22 (+77.7%)	全用途が堅調に推移するとともに欧州子会社の増産効果もあり、前年同期を上回る見通し。
環境・エンジニアリング	520	650	+130 (+24.9%)	3	▲ 10	-13 (-)	利益の計上が下期に集中する水道機工の連結子会社化により、増収減益の見通し。
ライフサイエンスその他	347	360	+13 (+3.8%)	13	15	+2 (+16.2%)	医薬・医療事業は、競争激化により、売り上げは前年同期を下回る見通しだが、体質強化を進め、増益の見通し。
(内、医薬・医療)	202	200	-2 (-1.1%)	▲ 3	3	+6 (-)	
連結	5,757	7,000	+1,243 (+21.6%)	356	340	-16 (-4.5%)	

# 事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し



## 期初見通し比

億円

	売上高			営業利益			特記事項
	期初見通し	今回見通し	増減	期初見通し	今回見通し	増減	
繊維	3,050	2,950	-100 (-3.3%)	110	90	-20 (-18.2%)	海外子会社が全体的に低迷し、期初見通しを下回る見通し。
プラスチック・ケミカル	1,650	1,730	+80 (+4.8%)	70	85	+15 (+21.4%)	樹脂は自動車用途向けに拡販を進め、フィルムはアジアの子会社が好調に推移し、期初見通し比増収増益の見通し。
情報通信材料・機器	1,050	1,050	- (-)	120	110	-10 (-8.3%)	国内は一部デジタル関連製品における在庫調整が長引き、期初見通し比減益の見通し。海外は期初見通し並の見通し。
炭素繊維複合材料	240	260	+20 (+8.3%)	40	50	+10 (+25.0%)	全用途が好調に推移し、期初見通しを上回る見通し。
環境・エンジニアリング	650	650	- (-)	▲ 10	▲ 10	- (-)	水処理子会社の赤字を、建設子会社とエンジニアリング子会社がカバーし、期初見通し並を見通す。
ライセンスその他	360	360	- (-)	10	15	+5 (+50.0%)	医薬・医療事業は体質強化を進め、期初見通し比増益の見通し。
(内、医薬・医療)	200	200	- (-)	0	3	+3 (-)	
連結	7,000	7,000	- (-)	340	340	- (-)	

# 本社移転について

NT-IIの達成による21世紀の新たな飛翔に向けて、日本橋の新たなランドマークである、「日本橋三井タワー」に本社を移転し、8月17日(水)より業務を開始。

オフィスや会議室の机に、植物由来の環境配慮型素材であるPLA(ポリ乳酸)繊維“エコディア”と天然繊維のケナフからできたボード(東レ製)を採用。また、“エコディア”を用いたカーペットを使用するなど、地球環境に配慮したオフィスとなっている。



「日本橋三井タワー」



現本社

東京メトロ「三越前」駅 A7・A8出口直結  
(銀座線より徒歩1分、半蔵門線より徒歩4分)  
JR総武線「新日本橋」駅より徒歩4分  
東京駅より徒歩約8分

住所: 東京都中央区日本橋室町2-1-1  
受付は25階となります。

# 最近のトピックス(05/5~05/7)(1)

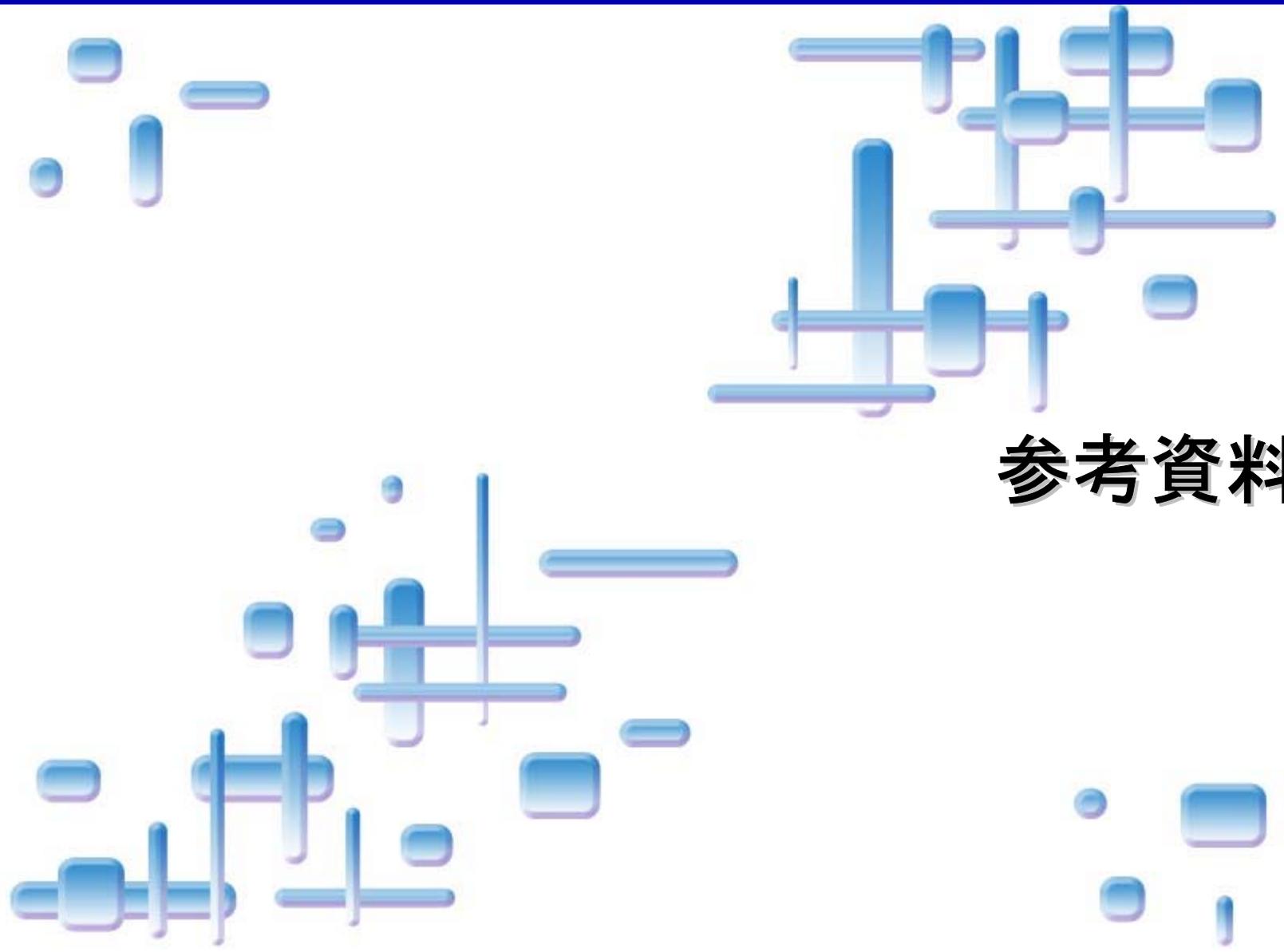
時期	トピックス	NT-Ⅱの施策			
		先端材料 事業拡大	ナンバーOne 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
6月	<p><b>韓国におけるフィルム加工設備の拡大について</b></p> <p>東レセハン亀尾第3工場に、電子部品用離型フィルム、PDP用反射防止フィルム等フィルム加工設備の建設に着手。第1期として約40億円を投資、2006年上期稼働を目指す。これにより、成長する韓国市場及び“BUY KOREA”政策による需要拡大に対応する。</p>	○		○	
6月	<p><b>チェコにおけるエアバック用織物の生産開始について</b></p> <p>チェコにおける織物製造子会社であるトーレ・テキスタイルズ・セントラル・ヨーロッパ(TTCE)において、エアバッグ用織物(基布)の生産設備を新設。2006年1月からの年産60万m規模の稼働開始を目指し、2009年度には年産約400万mまでに拡大する。</p>	○		○	
6月	<p><b>透析患者向け新規止痒薬の北米と欧州における共同開発およびライセンスに関する契約締結</b></p> <p>当社が開発したオピオイド系止痒薬「TRK-820」(東レ開発番号)について、米国のバイオベンチャー、アコロジクス・インク殿と当社は、北米と欧州における共同開発およびライセンスに関する契約を締結。TRK-820は、日本においては当社が掻痒症向けに日本たばこ産業(株)殿および鳥居薬品(株)殿と、アトピー性皮膚炎においてマルホ(株)殿とそれぞれ共同開発を実施しており、グローバルな共同開発体制を展開している。</p>	○		○	
6月	<p><b>優れた帯電防止性を有する次世代工程フィルムの開発について</b></p> <p>独自のコーティング技術により、優れた帯電防止性を有するポリエチレンテレフタレート(PET)基材をベースとした次世代工程フィルムの開発に成功。特殊機能高分子をナノオーダーで傾斜的に塗布する「傾斜ナノコーティング」により、離型性やクリーンな表面性などの革新機能の付与にも成功しており、IT・光学分野の各種工程フィルムとして今後大きな需要が期待される。</p>	○			

# 最近のトピックス(05/5~05/7)(2)

時期	トピックス	NT-Ⅱの施策			
		先端材料 事業拡大	ナンバーOne 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
6月	<p><b>コンパニオンアニマル用医薬品“インタードッグ”の製造承認取得について</b></p> <p>犬の皮膚病で最も発生率の高いアトピー性皮膚炎に対する治療薬として、世界初のイヌインターフェロン製剤の製造販売承認を農林水産大臣から2005年6月に取得した。愛媛工場に専用設備を新設し、年内の商品発売開始を目指す。</p>	○	○		
6月	<p><b>中国におけるポリエステル・綿混織物新会社の設立について</b></p> <p>中国において青島即発集団股份有限公司(以下即発)との合併によるポリエステル・綿混(T/C)織物および綿100%織物の製造・販売会社を設立。新会社名は「東麗即発(青島)染織股份有限公司」(TJQ)。経営責任を明確化するため、股份有限公司(株式会社)の経営形態を採用。</p>			○	○
7月	<p><b>PDP用感光性ペースト生産設備の増設について</b></p> <p>PDP用感光性ペースト生産設備を増強し、現状の80トン/月から180トン/月まで生産能力を引き上げる。新設備での製品供給は、2005年9月開始予定で、投資金額は約25億円。松下電器(株)殿との合併会社、松下プラズマディスプレイ(株)(MPDP)が建設中の世界最大規模の尼崎第三工場へのペースト供給体制に対応。</p>	○			○
7月	<p><b>韓国におけるFPD向け光学用ポリエステルフィルムの生産増強について</b></p> <p>韓国における光学用ポリエステル(PET)フィルムの生産増強を決定。グループ子会社東レセハン社(TSI)に約50億円を投資して、同社のPETフィルム生産能力を年産13,200トン増強する。韓国で急成長している液晶パネル、プラズマディスプレイパネル等のフラットパネル用光学フィルムの需要に対し、現地供給体制強化による需要取込みを図り、高付加価値品種の生産量を拡大する。</p>	○	○	○	

# 最近のトピックス(05/5~05/7)(3)

時期	トピックス	NT-IIの施策			
		先端材料 事業拡大	ナンバーOne 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
7月	<p><b>シンガポールでの大型海水淡水化ROプラント受注について</b></p> <p>シンガポール・チュアス地区で13.6万トン/日の海水淡水化プラントに使用する逆浸透膜エレメントを受注し、東レが新たに開発した「高ホウ素除去性能の逆浸透膜」を納入した。施設建設は、ハイドロケム社で、施設稼働は本年9月の予定。</p>	○		○	
7月	<p><b>ナノとバイオの融合による世界初の高性能タンパク質分画デバイスの開発について</b></p> <p>当社のナノテクノロジー(独自の分離膜技術)とバイオテクノロジー(タンパク質精製技術、医療機器開発技術等)を融合し、極微量の疾患関連タンパク質の検出が、極めて容易にかつ高精度の達成できる画期的な高性能タンパク質分画デバイスを世界で初めて開発。</p>	○			
7月	<p><b>各界から注目いただいている炭素繊維複合材料</b></p> <p>当社の炭素繊維複合材料事業が各界から注目いただいています。</p> <p>文部科学省科学技術政策研究所DISCUSSION PAPER No.38(2005年1月)では、「独創的な商品開発を行う研究者・技術者の研究」のケース・スタディとして、「一橋ビジネスレビュー」誌2005年春号ではビジネスケースとして、当社炭素繊維複合材料事業が取り上げられました。</p> <p>そして、2005年7月13日付日本経済新聞では、ボーイング殿の広告で当社とのパートナーシップをご紹介いただきました。</p>	○	○	○	○



# 参考資料

# 韓国におけるフィルム加工設備の拡大について

東レセハン亀尾第3工場に、電子部品用離型フィルム、PDP用反射防止フィルム等フィルム加工設備の建設に着工。第1期として約40億円を投資、2006年上期稼働を目指す。これにより、成長する韓国市場及び“BUY KOREA”政策による需要拡大に対応する。

## <第1期投資概要と背景>

投資額：40億円、設備能力：月産700万m<sup>2</sup>

用途：電子部品用離型フィルム、PDP用反射防止フィルム他

背景：

- ①韓国がIT関連産業の世界的拠点となっている。
- ②韓国政府は、IT関連部材の国内調達を加速。
- ③東レセハンのポリエステルフィルム事業において、製膜・加工一貫生産体制を確立してきた。

【PDP用反射防止フィルム】

PDPの構造(断面図)

反射防止(AR)フィルム



IT関連材料を中心とした先端材料への投資を進める

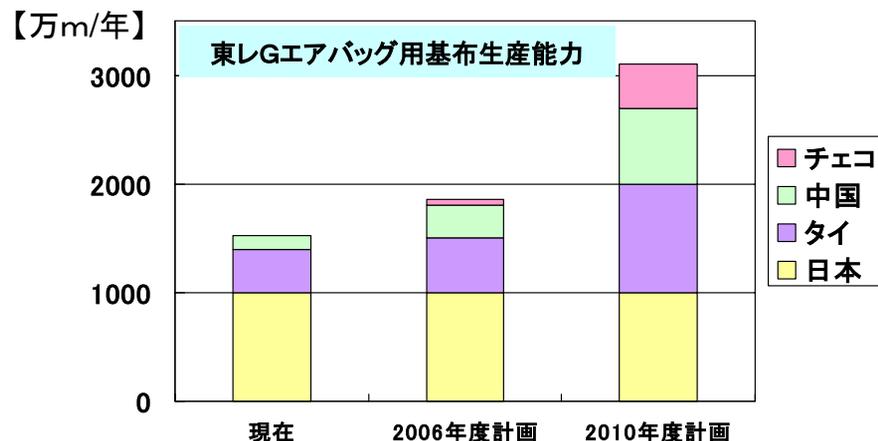
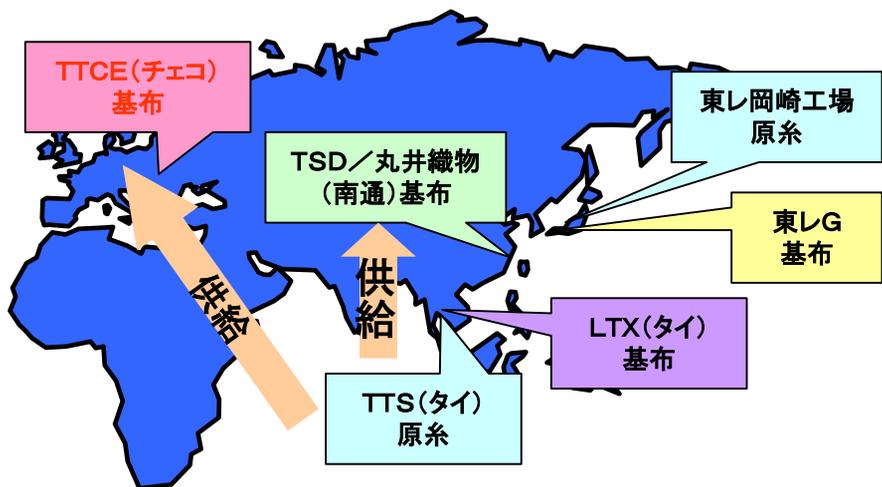
チェコにおける織物製造子会社であるトーレ・テキスタイルズ・セントラル・ヨーロッパ(TTCE)において、エアバッグ用織物(基布)の生産設備を新設。2006年1月からの年産60万m規模の稼働開始を目指し、2009年度には年産約400万mまでに拡大する。

## <本件背景>

- エアバッグの世界市場は、年率8%で拡大が予想される。
- 自動車メーカーの中・東欧進出に伴い、大手エアバッグ部品メーカーも中・東欧に進出。

東レGのチェコの織物生産拠点であるTTCEを活用し、中・東欧への供給体制を確立

## <東レのグローバルオペレーション>



グローバル展開(4極体制)によりお客様の現地生産の要望に対応

# 透析患者向け新規止痒薬の北米と欧州における共同開発 およびライセンスに関する契約締結

当社が開発したオピオイド系止痒薬「TRK-820」(東レ開発番号)について、米国のバイオベンチャー、アコロジクス・インク殿と当社は、北米と欧州における共同開発およびライセンスに関する契約を締結。TRK-820は、日本においては当社が掻痒症向けに日本たばこ産業(株)殿および鳥居薬品(株)殿と、アトピー性皮膚炎においてマルホ(株)殿とそれぞれ共同開発を実施しており、グローバルな共同開発体制を展開している。

## TRK-820に関する共同開発

### 欧州

開発内容: 透析患者向け新規止痒薬  
提携先: アコロジクス・インク  
ステージ: フェーズⅢ〔注射剤〕

### 米国

開発内容: 透析患者向け新規止痒薬  
提携先: アコロジクス・インク  
ステージ: 2006年～フェーズⅢ〔注射剤〕

### 日本

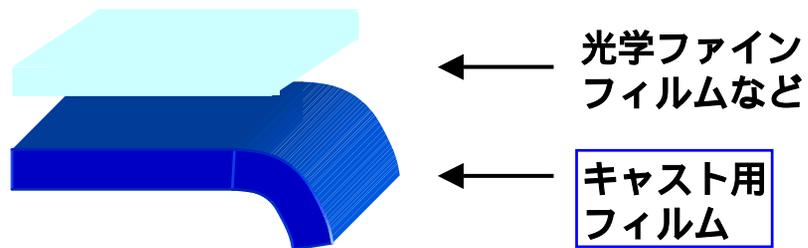
開発内容: 透析患者向け新規止痒薬  
提携先: 日本たばこ産業(株) / 鳥居薬品(株)  
ステージ: フェーズⅢ〔経口剤〕

開発内容: アトピー性皮膚炎向け新規止痒薬  
提携先: マルホ(株)

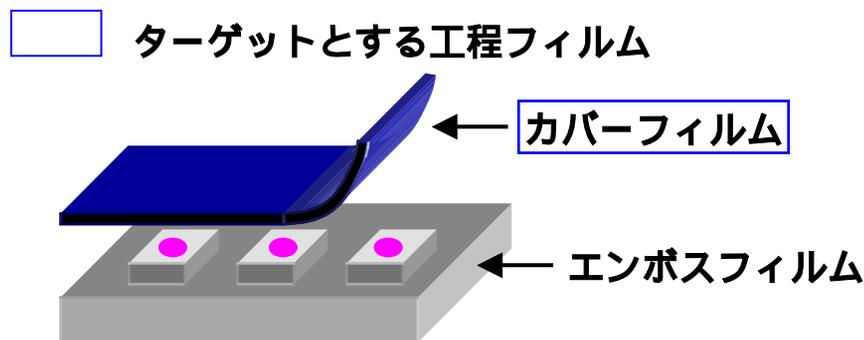
# 優れた帯電防止性を有する次世代工程フィルムの開発について

独自のコーティング技術により、優れた帯電防止性を有するポリエチレンテレフタレート(PET)基材をベースとした次世代工程フィルムの開発に成功。特殊機能高分子をナノオーダーで傾斜的に塗布する「傾斜ナノコーティング」により、離型性やクリーンな表面性などの革新機能の付与にも成功しており、IT・光学分野の各種工程フィルムとして今後大きな需要が期待される。

## < 適用が期待される工程フィルムの例 >



光学ファインフィルムを構成する「樹脂」を溶媒に溶かした塗液をキャスト用フィルム上に塗布



エンボスフィルムに入れて輸送される小型電子部品の保護等

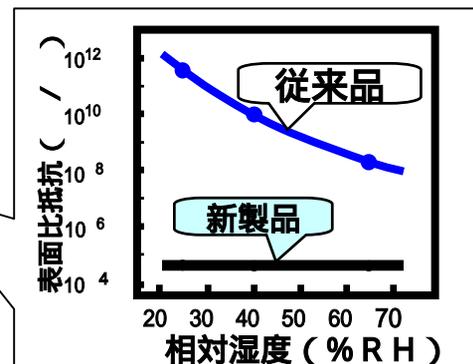
## < 当社開発の次世代工程フィルムの特長 >

### 既存工程フィルムの課題

- 湿度の影響による帯電防止特性の劣化
- 水洗工程での帯電防止特性や透明性の低下・着色

### 次世代工程フィルムの特長

- 高い帯電防止特性と湿度による帯電防止特性の劣化防止
- 透明性、クリーンな表面特性、優れた離型性を実現



# コンパニオンアニマル用医薬品“インタードッグ”の製造承認取得について



犬の皮膚病で最も発生率の高いアトピー性皮膚炎に対する治療薬として、世界初のイヌインターフェロン製剤の製造販売承認を農林水産大臣から2005年6月に取得した。愛媛工場に専用設備を新設し、年内の商品発売開始を目指す。

## ＜“インタードッグ”の特長＞

1. 現行のステロイド剤治療に比べて有効で、安全性が高く、簡便。

現行のステロイド剤  
副作用が問題



イヌインターフェロン $\gamma$ を主剤とする注射剤  
「掻痒」、「掻波痕」、「紅斑」、「脱毛」に効果

2. 当社が世界をリードしている遺伝子組換えカイコ技術を利用して生産し、さらに、生産効率が良く、保存安定性に優れる技術も組み入れる。

カイコ自体を組換えタンパク質の生産工場として利用する昆虫工場技術

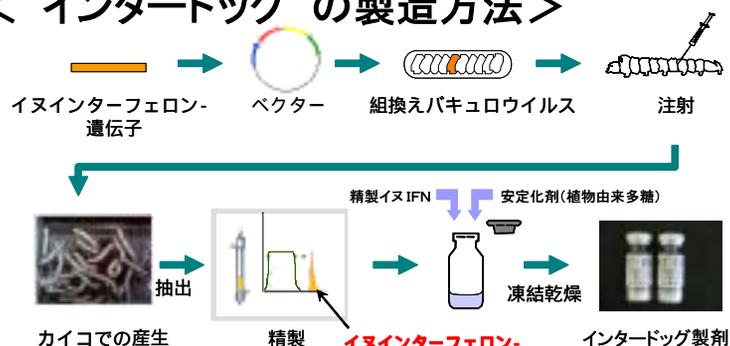
+

タンパク質構造改良技術  
タンパク質純度向上技術  
新規の安定化剤

愛媛工場内  
専用設備外観



## ＜“インタードッグ”の製造方法＞



## ＜東レのコンパニオンアニマル用医薬品事業＞

“インターキャット”: 犬猫用感染症治療薬 **ナンバーOne事業**

“インタードッグ”: 犬用アトピー性皮膚炎治療薬 **新製品**

コンパニオンアニマル用医薬品事業の一層の拡大

# 中国におけるポリエステル・綿混織物新会社の設立について

中国において青島即発集団股份有限公司(以下即発)との合併によるポリエステル・綿混(T/C)織物および綿100%織物の製造・販売会社を設立。新会社名は「東麗即発(青島)染織股份有限公司」(TJQ)。経営責任を明確化するため、股份有限公司(株式会社)の経営形態を採用。

東レ

ナンバーOne事業

- T/C織物中高級品で世界シェアNo. 1
- T/C織物生産をワールドワイドで展開
- T/C織物の事業ノウハウ・販売網を駆使し、新しいビジネスモデルを構築

即発

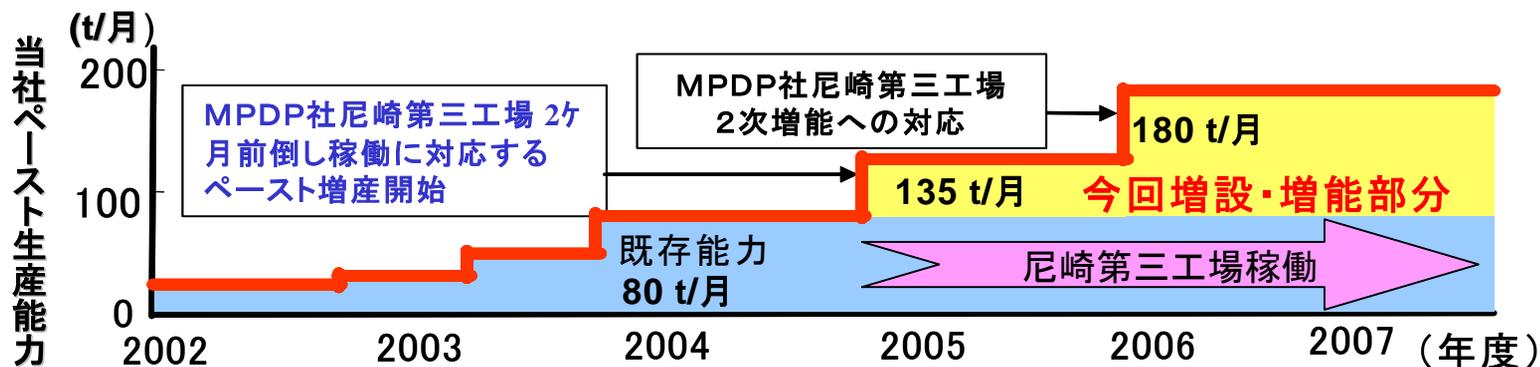
- 安定した労働力と用役の確保
- 市政府・省政府との良好な関係
- 綿花・染料等原材料での調達ルートを保有
- 紡績～編・染のテキスタイル～縫製までの一貫経営の実績

## 「東麗即発(青島)染織股份有限公司」(TJQ)

- 中国・山東省青島即墨市の即発龍山工業団地内に紡績・織布・染色の一貫体制の工場を新設。
- 2006年3月から第一段階として月産200万mの規模で操業開始予定。早期に月産約400万mにまで拡大する計画。
- 欧米・一部日本を含めた縫製輸出向けや、内需向けに事業展開
- T/C及び綿100%の薄地から厚地までを展開。
- 東レグループで販路を確立しているシャツ用途に加え、ユニフォーム、パンツ用途などへの拡大。



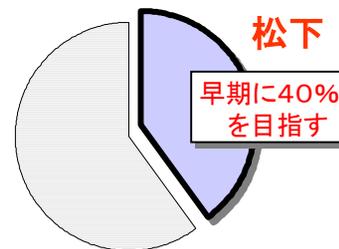
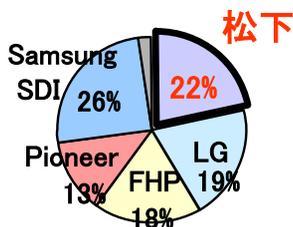
PDP用感光性ペースト生産設備を増強し、現状の80トン/月から180トン/月まで生産能力を引き上げる。新設備での製品供給は、2005年9月開始予定で、投資金額は約25億円。松下電器(株)殿との合弁会社、松下プラズマディスプレイ(株)(MPDP)が建設中の世界最大規模の尼崎第三工場へのペースト供給体制に対応。



松下Gパネル  
生産能力  
(42"換算)



2004年  
PDPパネル  
シェア

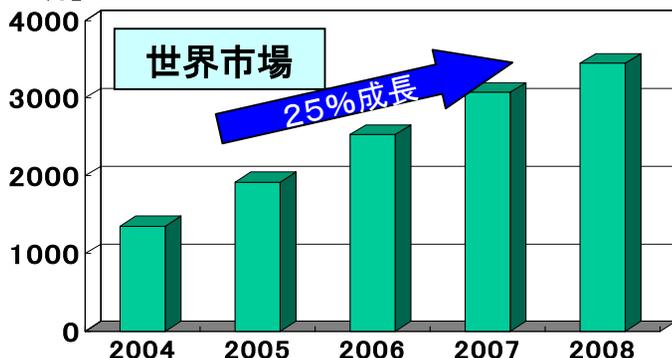


# 韓国におけるFPD向け光学用ポリエステルフィルムの生産増強について

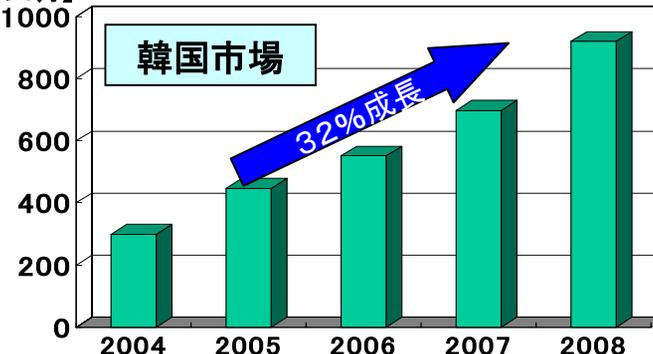
韓国における光学用ポリエステル(PET)フィルムの生産増強を決定。グループ子会社東レセハン社(TSI)に約50億円を投資して、同社のPETフィルム生産能力を年産13,200トン増強する。韓国で急成長している液晶パネル、プラズマディスプレイパネル等のフラットパネル用光学フィルムの需要に対し、現地供給体制強化による需要取込みを図り、高付加価値品種の生産量を拡大する。

## <FPD用光学PETフィルム需要見通し>

【トン/月】

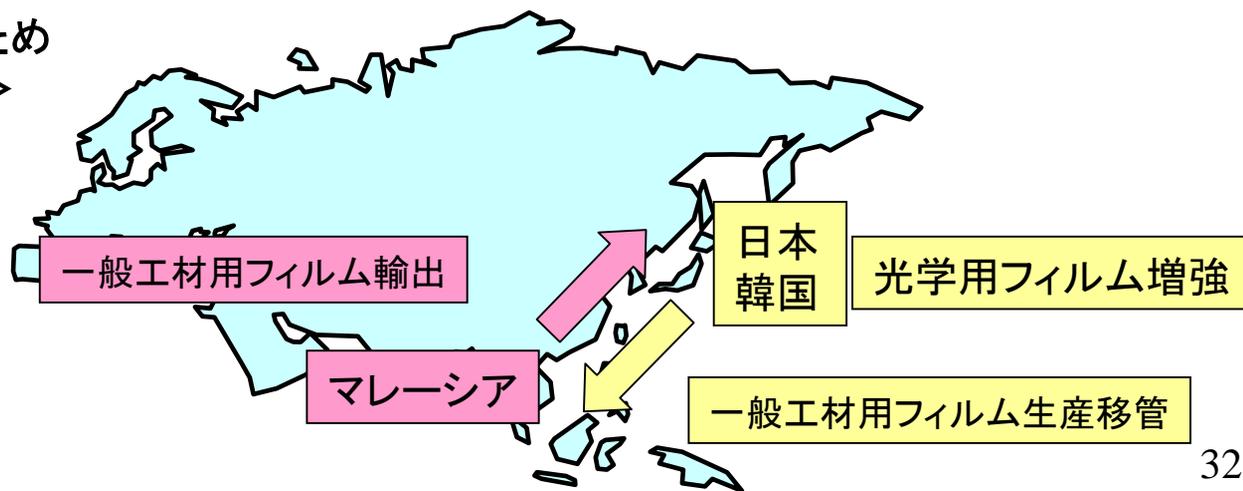


【トン/月】



## <光学フィルム生産能力増のためのグローバルオペレーション>

光学用フィルムの需要増に対応するため、日本・韓国で光学用フィルムを増産し、マレーシアで日本・アジア向け一般工材用フィルムの増産を行う。



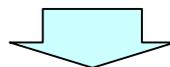
# シンガポールでの大型海水淡水化ROプラント受注について



シンガポール・チュアス地区で13.6万トン／日の海水淡水化プラントに使用する逆浸透膜エレメントを受注し、東レが新たに開発した「高ホウ素除去性能の逆浸透膜」を納入した。施設建設は、ハイドロケム社で、施設稼働は本年9月の予定。

## <チュアス海水淡水化プラント>

- 他社に先駆け、生産水中のホウ素濃度を半分に改善する逆浸透膜を開発。極微細孔径を高精度に制御する事により、高い透水性を保ちながらホウ酸分子のみを除去。



今般、シンガポールに於いて環太平洋最大のチュアス地区海水淡水化プラントに採用。

## チュアス海水淡水化プラント内部



The SingSpring Desalination Plant in Singapore built by Hydrochem

## <東レ水処理事業について>

21世紀は水の世紀(水不足が地球規模で問題に)

中期経営課題「NT-Ⅱ」で戦略的拡大事業である環境・安全・アメニティー分野の中核事業として推進し、持続的な水資源確保に貢献。

### 東レのRO膜採用事例

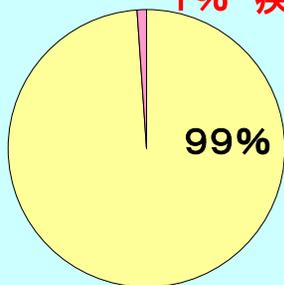
	国名	所在地	造水量 (m3/d)	稼働開始 (year)
海水淡水化	トリニダード & トバゴ	Point Risa	136,000	2002
海水淡水化	シンガポール	Tuas	136,000	2005
海水淡水化	サウジアラビア	AlJubail	90,909	2000
下水再利用	クウェート	Sulaibiya	310,000	2005
下水再利用	シンガポール	Seletar	24,000	2004

# ナノとバイオの融合による世界初の高性能タンパク質分画デバイスの開発について

当社のナノテクノロジー(独自の分離膜技術)とバイオテクノロジー(タンパク質精製技術、医療機器開発技術等)を融合し、極微量の疾患関連タンパク質の検出が、極めて容易にかつ高精度の達成できる画期的な高性能タンパク質分画デバイスを世界で初めて開発。

## 血液中のタンパク質

1% 疾患の原因や指標になる低分子量タンパク質(創薬のターゲット)



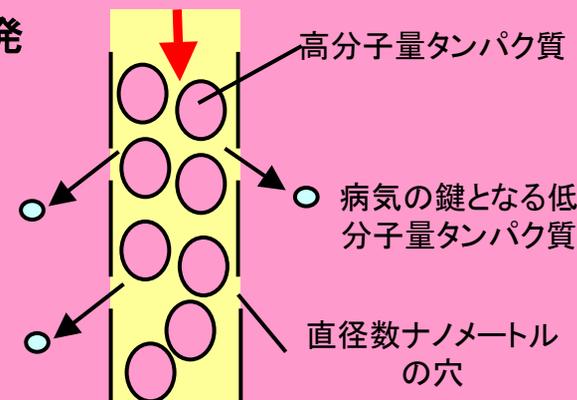
99% アルブミン等の高分子量タンパク質

タンパク質分析の妨害成分であり、  
分離除去する技術の開発が課題

## ナノテクとバイオの融合

### 直径数ナノメートルの穴を持つ中空糸膜を使用した装置を開発

- ・短時間(1~2時間)で高分子タンパク質を除去
- ・分子量1万~3万程度の低分子量のタンパク質(創薬のターゲットが多数存在)を選択的に濃縮し、回収



# 各界から注目いただいている炭素繊維複合材料

当社の炭素繊維複合材料事業が各界から注目いただいています。文部科学省科学技術政策研究所DISCUSSION PAPER No.38 (2005年1月)では、「独創的な商品開発を行う研究者・技術者の研究」のケース・スタディとして、「一橋ビジネスレビュー」誌2005年春号ではビジネスケースとして、当社炭素繊維複合材料事業が取り上げられました。

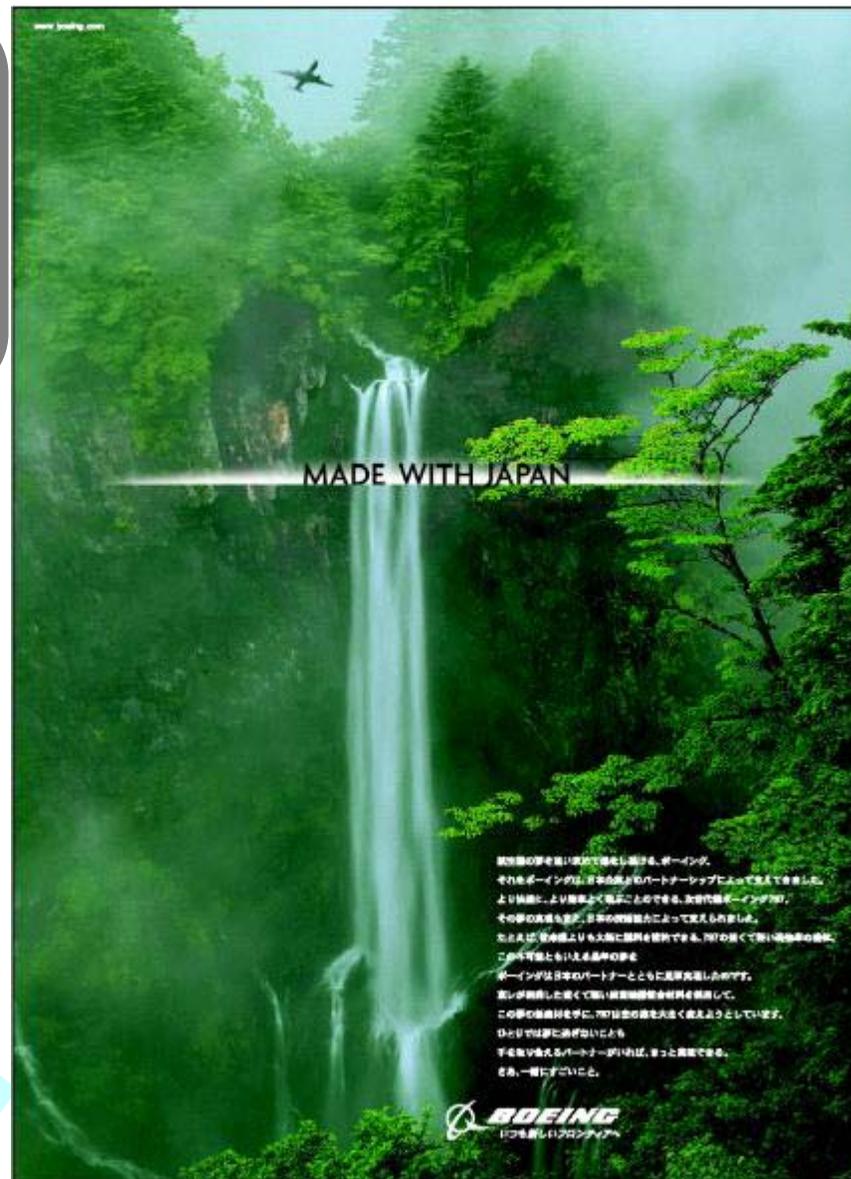
そして、2005年7月13日付日本経済新聞では、ボーイング殿の広告で当社とのパートナーシップをご紹介いただきました。



文部科学省科学技術政策研究所DISCUSSION PAPER No.38は、<http://www.nistep.go.jp> でご覧になれます。

## <ボーイング殿の広告のコピー>

航空機の夢を追い求めて進化し続けるボーイング。  
それをボーイングは、日本企業とのパートナーシップによって支えてきました。  
より快適に、より効率よく飛ぶことのできる、次世代ボーイング787。  
その夢の実現もまた、日本の技術協力によって支えられました。  
たとえば、従来機よりも大幅に燃料を節約できる、787の強くて軽い高効率の機体。  
この不可能ともいえる長年の夢を  
ボーイングは日本のパートナーとともに見事実現したのです。  
東レが開発した強くて軽い炭素繊維複合材料を採用して  
この夢の新素材を手にも、787は空の旅を大きく変えようとしています。  
ひとりでは夢に過ぎないことも  
手を取り合えるパートナーがいれば、きっと実現できる。  
さあ、一緒にすごいこと。



2005年7月13日付日本経済新聞より

本資料中の2006年3月期中間期の業績、見通し、及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。